

sousei

そうせい

2011年5月

No.153

特集

《鼎談》

地球遊行

～世界の生死を觀じ、そして自身へ～

Pray for ...



お見舞い

平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災によって被災し、亡くなられた方々に対しまして衷心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。また、近親が行方不明の皆様、さらには、原発事故、風評被害によって将来への不安と絶望を抱き、悩み苦しんでおられる皆様に対して心からお見舞い申し上げます。

全国曹洞宗青年会では、震災発生後直ちに災害復興支援部を立ち上げ、曹洞宗宗務庁、全国曹青会員、シャンティ国際ボランティア会との連携を図り、さらには各地の市民ボランティア、現地社協をはじめとした各種団体、行政とも協力関係を構築し、初動時での緊急物資支援や現地における炊き出し、泥や廃材の撤去作業、並びに傾聴活動(行茶)などの活動を実施してきました。

私たちは、震災後これまでの復興支援活動を通して、容易に言葉にすることが出来ない程の、被災地における惨状を目の当たりにし、現状に驚き悲しみ、受容し難い別れを体験した避難所における多くの方がたの悲痛の声をお聴きして参りました。

復興への道は長く険しいものになると推察されます。

いまは瞬間に過ぎ去っていく日々、私たちに果たして何が出来るかを一人ひとりが自らに問い続けています。そこに確信はありません。しかし、私たちは被災地の一日も早い復興と、被災者の方々の心の安寧を祈らずにはられません。

今後、復興支援へ心と行動をお寄せ頂ける全ての関係者の皆様とともに、いのちの声に耳を澄まし、被災者の方がたと復興への道を一步一步、共に歩んで参りたく存じます。

全国曹洞宗青年会 会長

久間泰弘

合掌



被災地での現地活動レポート

全曹青では、東日本大震災発生から『災害復興支援部』として、会員をはじめとした各所からの情報収集を行い、『ホームページ』『般若』での情報共有、現地での物資やボランティアのニーズの把握などに努めました。

そして3月17日に緊急対応として、福島県へ救援物資を届けたのを皮切りに、現地での炊き出しや行茶(避難所等)において、お茶を提供し、お話をする中での傾聴活動)を始めた。被災地での各曹青会の活動に対して支援活動をしています。

未曾有の広域的な大規模災害への対応に難しい面もありますが、被災者を主体に考え、復興の一助になればと考えます。(詳しくは、全曹青ホームページ『般若』でご確認下さい)

2 緊急レポート 東日本大震災

4 鼎談◎地球遊行 ～世界の生死を觀じ、そして自身へ～

7 全曹青、発信せよ。 委員会、只今活動中



10 加盟団体ニュース・スポット sousei ぱれっと 青森県曹洞宗青年会

12 賛助費浄納御芳名簿

14 あまみずのダイアログ 13 (完) 彼女の生き方 ～Five Stories～(後編)

あまみずのエピローグ

18 お坊さん婚活心得 5 (完)

19 お寺暮らしのライフデザイン 5 (完)

20 寺めぐり 街めぐり 8 (完) 耆閻崛山 羅漢寺を訪ねて

23 メメント 生死を想う 8 (完)

表紙写真：制作・撮影／白山賢吾(三重県 栢雲寺)

訂正

『sousei』152号の記事に誤りがございました。お詫びして訂正します。

8頁「全曹青第4期副会長 故・長井福雄老師を偲んで」

本文1段7行 誤)長徳寺 → 正)長得寺



表情を失った町民が「わが町」を見つめていた(3月14日 宮城県南三陸町)



「うちのばあちゃんなんです」と手を合わす男性(3月13日 宮城県仙台市)

緊急レポート 大東日本 震災

電車、大型トラック、家までが「おもちゃ」のように流され、破壊された。線路は外れ、ひん曲がる。3階建ての庁舎は屋上にまで瓦礫と波が押し寄せ、人々を呑み込んでいった。3月11日に発生した東日本大震災。人々は激しい揺れに何とか耐えようとした。しかし、その半時間後に押し寄せた超巨大津波が完膚無きまでに追い打ちをくらわせた。さらなる火災で一帯を焼き尽くされた地域も多かった。

イラクやソマリアなどの紛争地でも筆者が見ることがなかったような壊滅状況は、広範囲への徹底的な絨毯爆撃を思わせ、思わず「津波爆弾」という言葉が飛び出した。踏みしめる瓦礫の下にまだ万単位の人々がうずもれている。息絶えた多くの人々にも出あった。何度も手を合わせ、頭を垂れた。地震、津波が襲った当日夜、筆者は関西から現地へ向けて車で出発した。夜通し走り続けた翌午前、福島県沿岸に到着。車中泊しながら岩手県まで徐々に北上していった。その間、目に飛び込んできたのは、瓦礫の山々。人間が造ったすべてを、いとも簡単に「自然」が破壊し尽くしたのだ。「自然の鉄槌」は原発も見逃さなかった。人間がする「想定」などは、地球、あるいは宇宙の「営み」をはかれない。人智がまったく及ばない世界。そこに我々が、ほかのものたちとともに、生かされている。自分の生活を今日から見直し、改めることに、追悼の意も込めたい。

(写真・文 國森康弘)



かたく握った手をはなさないように(3月15日 岩手県大槌町)

鼎談

土井義尚師 × 國森康弘氏 × 秋吉龍成師

地球遊行

ちきりちきり

世界の生死を觀じ、
そして自身へ

「年間に自死を選択する人がおよそ3万人以上、引きこもりはおおよそ100万人以上」。久間会長が所信表明でも触れた現代日本の病巣。18期全曹青にとっては、「大衆教化の接点」としての電話相談員養成事業を展開する上で、否応無しにそういった世情の後ろ暗さと向き合わざるを得ませんでした。

本稿は、18期全曹青の活動を総括するという思いを込めて、電話相談員養成事業の裏付けとなった現代日本について、世界規模で活躍する方々の意見も交えて再考します。

鼎談の出席者は、元陸上自衛隊幹部ながら、大本山永平寺での修行歴も持ち、現在は「NPO 法人 日本地雷処理を支援する会」(以下、JMAS)のアンゴラ事務所現地代表を務められる土井義尚師(曹洞宗侶)。そして『sou sei』に「メント」を連載されたフォトジャーナリストの國森康弘氏。18期全曹青の電話相談員養成事業を取り仕切った秋吉龍成師(基幹事業委員長)の3名です。

鼎談が行なわれた3月17日は、「東日本大震災」の発生からおおよそ1週間後に当たり、計画停電や福島原発の事故を受けて、鼎談場所である東京都内も非常時の重苦しいような空気に支配されていました。自ずと鼎談の口火も震災の話題からとなりました。

*本稿は発言者の個人的な見解に基づいた言質で構成されており、全曹青自体の公式な見解を標榜するものではありませんが、発言者の意志を尊重して、原意に則って掲載します。今取り上げたテーマにおける視点の一つとしてお読み下さい。

〈聞き手：全曹青広報委員会 板倉・城市〉

驚異の災害と日本の民度

——今の時点で総括的なことは話せませんが、それでも今、「東日本大震災」の話題を避けては通れません。國森さんは発生直後に被災地に入られましたか、実際に現地で何を感じられましたか？

國森 ● 完全に人智の及ばないところで破壊されている有様で……ただただ圧倒されました。みんな嘆き悲しんで涙

で途方に暮れるというよりは、その実感までいってなくて、「悪夢でも見てんちゃうか」って感じで、目も合わずフラフラ放心状態で歩いているようでした。

土井 ● 日本は世界的にも自然災害が最も多い国の一つです。よく「アンゴラって内戦もあつたし、治安も悪くて危険じゃないですか？」って質問されますが、その点ではアンゴラに住んでい



カンボジアでのJMASによる不発弾処理活動の様子(土井)



土井義尚師

秋吉龍成師

の方が、かえって安全と思えるほどです。一方で、日本人の節度ある行動を外国のメディアが讃えていますね。ちょうど地震発生した日に、帰宅途中に立ち寄った池袋駅でお手洗い待ちの行列が100メートル以上！ しかも非常事態にも関わらず、落ち着いて整然と並ぶ様子を見て、さすがにその時は「これが日本人か」と感心しました。



島根県隠岐諸島で「看取りの家 なごみの里」を取材(國森)

JMASの活動の一環で、アンゴラの子どもたちに綿菓子を作って振る舞うことがあるんですが、彼らは「並びなさい」と言っても並ばない。隙間があればどんどん入ってくる。外国のメディアが日本人の節度ある行動を讚えるのはもっともだと思います。

國森●私も世界の被災地や紛争地を見て歩きましたが、今の東北の状況下で、窃盗が全くないわけではないにしても、店舗などでの表立った略奪がないのはすごいことだと思います。

秋吉●日本人みんなの節度が、利己的な行動をする人間が多少いたとしても、それを律する力になっているんですよ。

フォトジャーナリストという職業

——國森さんが、『sousei』のようなマーケットも小さい仏教系のメディアを、敢えて作品発表の場を選ばれたのには、どんな思いがあったのですか？

國森●フリーに転身したきっかけはイラク戦争(2003年)でした。当時は「自己責任」が叫ばれていましたから、会社に属しては取材には行けなかったんです。でも戦地の惨状を何とかでも伝えたくったのですが、結果的には読者も身内も「何で今、イラクに行くんだ」という反応が多くて、「身近な人の生き死にならともかく、イラクで起こっていることは、日本人にとつて遠い地域で起こっていることではないんだ」とて意気消沈しました。でも、ひよんなことから『sousei』を目にして、「もしかしたら自分の思いは、お坊さんになら届くかもしれない」とて思ったんです。

——被災地や紛争地では、直接的な救援活動が優先され、取材活動自体が二次的に扱われることはないですか？

國森●そうですね。自分に何ができるのか、むしろ活動が現地の負担になつてはいないか、とは常に考えます。自分も自衛隊とか消防隊員のように体を張つて、一人でも救出可能であれば、と願いながら現地に行くんですけれど、結局(東日本大震災取材で)自分が見つけたのは、すでに亡くなっている人たちばかり……。すごい無力感があります。でも、自分がイラクで被害を受けた子どもたちを紹介したことで、支援のために寄付してくれた人もいたんです。自分にはカメラとペンしかない。自分ができることの中で、強い「祈り」を持って活動していますね。

秋吉●それはよく分かります。とある

命が亡くなつてから様々な関わりや活動が始まるのは、我々僧侶も同じです。飼っていた金魚が亡くなると、日本人は土に埋めて弔いますが、カナダなどではトイレに流すのが当たり前だそうなんです。また、1985年の御巣鷹山日航機墜落事故の際も、いつまでも遺族が乗客の遺体を探すのを、外国の方は「何であんなに遺体に拘るのだ。もう亡くなっているのに」という感想を漏らしたと聞きます。日本人にとつて「死後」には特別な意味があるのではないのでしょうか。

土井●今回の震災も、今後の10年を見据えた規模で復興に当たらなければいけません。その間に衆目を被災地になぎ止めるためにも、國森さんのような仕事が必要なんです。

電話相談と、AKINANと、四門出遊

——秋吉委員長は、以前から精神保健福祉士としても活躍され、電話相談の実績もありました。基幹事業委員長として電話相談を担当することになった時、率直にどう思われましたか？

秋吉●この事業は10年は費やさないとい人前にならないと思いました。それを任期の2年間でできることがあるとすれば、それは10年続けられるくらいの想定で土台作りに専念することでした。それから、相談員を養成することと同時に進行で、相談員自体のケアもしなければ、と思いました。私自身、罵声を浴びせられたり、相談員の受け容

えが気に入らなくて「法的に訴えるぞ」と脅されるなどして、相談員側が燃え尽きて辞めていくのを何回も見えてきました。今期は、ただでさえ研修時間が十分に確保できたわけではありませんから、相談員がいきなり、いわゆる「モンスター相談者」に当たらないよう、広報活動を抑制したのが実状です。相談者ばかりではなく相談員の「いのちの声」にも耳を澄まさなければ、「自死者年間約3万人」という構造は変えられないでしょう。

——そうまでして、全曹青という組織が電話相談に取り組む意義はなんだと思えますか？

秋吉●研修会の参加者が傾聴法を学び、語るだけではなく聴くことに意識を向けることができたこと。それから、各自の具体的な活動の場であるお寺において、実際に来られる人だけでなく、電話でも話を聴くことができる。お寺にいながら活動の枠が可変する可能性を提供できたことではないでしょうか。



國森康弘氏



第1回の電話相談員養成基礎研修会にて(秋吉)

土井●今回の地震の犠牲者がどのくらいになるか想像もつきませんが、恐らく何万人単位になるでしょう。それに匹敵するであろうおおよそ3万人以上の方が、久間会長の言葉を借りれば「自死を選んで」いるんです。しかも毎年ですよ。だからこそ、全曹書が電話相談に取り組むのには、大変な価値があります。自死のことを、私は個人的に「本能不全だ」と言っています。命のあるものはすべて本能的に生きようとするんですよ。JMASが活動するカンボジアやアンゴラは、人間の生活条件としては決して恵まれていませんが、日本と比べて自死率は格段に低い。では、何で本能不全に陥るのか。冒頭で日本人の素晴らしさに触れましたが、逆に足りないところもいくつかあるんです。特に、生死に関する教育が足りません。「なんで自死しちゃいけないの？俺の命は俺のもの」という質問をする若者がいると聞きますが、私は「とんでもない！命はあなたのもの

ではない、作られているんだ！3000円の顕微鏡でも買って、自分の精子なり卵子なりを見てみるっ！」と反論したい。30代の頃の私も「自分で何でもできる」と思い上がってましたが、顕微鏡の中で「生存競争」を生き抜こうとごめく自分の精子を見て「これは自分の命ではない」と気付けられたんです。命は自分とは別の意思によって作られている。それを私は「AKINAN(アキナン)」って言っているんですけど……。

——「AKINAN」？何語ですか？
土井●私の造語です。ローマ字で逆から読むと「何か(NANIKKA)」。それを神や仏って呼ぶと宗教的に差異も生まれてきますから、私は「AKINAN」と呼ぶことにしています。「AKINAN」とは本能のこともあるんです。すべては「AKINAN」の思召し。それに逆らうことを、私は不全だと看做しています。また、価値の多様性を言い訳にして、「善いこととは何か」を教えることも足りていません。今の日本人は「悪いこと」は列挙できても、「善いこと」はなかなか言えないんです。結論から言うと、生きることそのもの、そして生き尽くして死ぬことが「善」なんです。

國森●自分もそう思いますね。生き尽くしたら死ぬ。それを次代に見せることが大事だし、それこそが「命のリレー」だと思っんです。そういう連鎖やつながりを、自分だけの恣意で断つてはいけません。昨年、政情不安が続くア



フリカのウガンダで孤児の支援活動をしているNPO法人から声がかかって、ウガンダに取材に行ったのですが、その時に、引きこもりと不登校で、自死もかけた日本の中学生が母親と一緒に来ていたんです。1〜2週間の滞在でしたが、その子はウガンダの孤児との触れ合いの中から、彼らがエイズやマラリアや栄養失調で、明日にも死ぬかもしれない現実を自分の肌で感じて涙した。同時に自分も蚊に刺されるとマラリアに罹るかもしれない。そんな経験をして帰国してからは、「死ぬ」と言わなくなりました。不全だった本

能を取り戻し始めるきっかけになったのだと思います。
——今の日本での生活習慣に、本能不全を引き起こす一因があったのでしょうか？

國森●そう思います。でも自殺志願の日本人が全員ウガンダに行くわけにもいきません。身近な死や誕生を自分で見ている経験が大事だと思うのですが、およそこの50年の間、日本の社会ではそういう経験ができないようになっていたのではないのでしょうか。

土井●要するに、今は生老病死の自覚をなるべく遠ざけようとしている社会になつてきているんですよ。子どもの頃から、画一とも清潔とも言い切れない、この世の多様性を見せつけなければいけません。葬儀もそうですが、人間が誕生する場面、もしくは病人や認知症のおじいちゃんやおばあちゃんの生き様を見せつけなきゃ。
秋吉●今こそ、社会全体の人々にとつて「四門出遊」が必要なんでしょうね。

プロフィール

土井義尚

1942(昭和17)年、山梨県生まれ。甲府市自衛隊院住職。65年、防衛大学校機械工学科卒業後、陸上自衛隊に入隊。防衛駐在官(スウェーデン)、武器学校長、技術開発官(陸)、補給統制本部長などを歴任。99年に退官して、同年大本山永平寺に上山。送行後、01年9月に「日本地雷処理を支援する会」の設立し、理事長に就任。現在は、08年に開設されたアンゴラ事務所の現地代表兼地雷処理専門家。

「認定特定非営利活動法人 日本地雷処理を支援する会」(JMAS)

自衛隊OBが中心となって01年に任意団体として設立され、02年5月には特定非営利活動法人の認可を受け、同年7月からカンボジアでの不発弾処理の活動を開始。カンボジア以外にもラオス、アフガニスタン、パキスタン、アンゴラでも地雷・不発弾の処理を行ない、11年2月までに約30万発の処理実績がある。JMASのロゴには、地球、砲弾とともに合掌が図案化されている。



■東京事務所

〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町3-18 エムズビル5階
電話：03-5228-7820 FAX：03-5228-7821
E-mail：jmas-hp@jmas-ngo.jp
URL：http://jmas-ngo.jp

國森康弘 プロフィールは23頁参照

秋吉龍成

全国曹洞宗青年会基幹事業委員長。鹿児島県曹洞宗青年会所属。鹿児島県出水市・龍光寺副住職。

全曹青、発信せよ。

委員会、只今活動中

基幹事業委員会

基幹事業委員会において2年間にわたる活動の目標としたのは、①委員全員で講師を務めて、基礎研修会と発展研修会を成功させることと②“いのちの声に耳を澄ます”実践の場である電話相談窓口を基幹事業委員会で開設し運営すること、の2点でした。

1 研修会について

平成21年12月の四国管区研修会から翌年9月の京都での発展研修会まで、各管区理事の皆様をはじめ全国の会員諸師の協力を得ることによって、全9管区での基礎研修会と2回の発展研修会を開催することができました。全ての研修会で私たちの予想を上回る参加者数がありました。参加者のモチベーションは極めて高く、多くの方から事業に対する賛意が感じられました。

目標であった委員全員による研修会講師は、極めてうまくいったのではないかと思います。参加者が研修進行に協力的だったことも勿論ですが、各委員が研修会ごとに時間配分から発言内容に至るまで綿密に準備と打ち合わせを行ない、さらに積極的に協力しあったことが成功要因だと思います。

2 電話相談窓口『観世ふおん』について

平成21年11月1日の開設から平成23年3月27日までの延べ74日間で100件の着信がある。家庭や地域で孤立しがちな相談者や、誰に話せばいいのか判らず困っている相談者からの着信があった。相談受理記録から相談員による丁寧な傾聴が伺えるが、相談者からも好反応を得ている。実際、多くの相談者がリピーターとなっており、相談のたびに前回の相談の御礼を述べてくれている方もある。

ここでの目標については、概ね達成できてはいるがまだ十分とはいえない。電話相談における傾聴は前述の通り問題なしだが、諸々の行事や通夜等の檀務で相談員側が電話受付開始定刻の22時に遅れてしまったケースが約1割あったということは課題に挙げられる。幸い、相談用2回線共に遅刻ということはないのだが、掛けたが繋がらなかったという相談者の失望は大きいのではないかと想像できる。

わずか2年間の活動でこの事業を総括するのは難しいと思いますが、敢えて総括するならば、18期全曹青の思いである“いのちの声に耳を澄ます”ことを、委員が研修会を通じて会員諸師に伝えられた点と、『観世ふおん』電話相談窓口を開設し、継続可能な運営体系を整備した上で実践できたという点で、青年僧による社会貢献の一形態を示せたのではないかとこのことを挙げたいと思います。

執行部

- *1月24日に特別委員会を曹洞宗檀信徒会館にて開催し会務会計や会則・規程についての精査検討を行いました。
- *2月21日に第5回執行部会、翌22日に第6回理事会と特別委員会を東京都青松寺様にて開催し、第18期の総括にむけての会務確認を行いました。また併せて特別委員会にて平成23年度の定期評議員会・定期総会へ上程する会則・規程の改正について審議しました。
- *新年度になり、4月19日に第1回執行部会と並行して年度末監査、翌20日には第1回理事会と特別委員会を曹洞宗檀信徒会館にて開催しました。第18期の総括となる22年度活動報告・会計報告、第19期の指針を示す23年度活動予定・予算案、会則・規程の改正案を定期評議員会・定期総会への上程に向けて確認検討を行いました。



法式委員会

- *今期の法式委員会の活動としては、三つの事業を柱に進めてまいりました。一つ目は『二師侍者公務帖』の加筆再版事業です。初版関係諸師の方々から資料収集しての再刊となりました。二つ目はDIGIそうせい『出班焼香法の手引き』の頒布事業です。大乘寺にて本伝供の撮影を行い、愛知県日泰寺専門僧堂において十八拜法要の撮影を行いました。冊子を付けることにより、細かな資料をも提供することができました。三つ目は面山瑞方撰『洞上僧堂清規行法鈔』の現代的改訂事業です。清規研究の第一人者の尾崎正善先生に監修依頼し、面山瑞方を顕彰しておられる永福会ご協力のもと、事業を進めることができました。今年5月の総会頃には完成する予定となっております。法式委員会として、三つの事業の遂行を終え、法式の原点に立ち戻るといふ意味でも大きな成果を残すことができたと思います。

総合企画委員会

- *全国のご寺院様並びに会員諸師におかれましては、頒布物を多数ご購入いただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。第18期では、全曹青をご支援いただいている皆さまに、頒布事業を通して少しでも還元できるように活動してまいりました。出向した委員全員が、各曹青会で培った力を存分に発揮し、委員会の業務に適材適所で邁進してくださったことをここにご報告いたします。本当に最高のメンバーで2年間有意義に活動させていただきました。第19期では写経を通じた布教活動を推進する予定です。頒布活動に引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

広報委員会

- *『東日本大震災』の発生に伴って、ホームページ『般若』にリンクする災害復興支援部のページにおいて、被災地並びに支援の情報をリアルタイムで発信しました。被災地からの悲痛の叫びを逐次追うのは、胸を締め付けられるような作業の連続でした。しかし、被災地と各曹青会をつなぐ手段として、『般若』と災害復興支援部のページが大きな役割を果たしたことが、委員会にとって今後の大いなる糧になることを祈念して止みません。
- *『般若』のダウンロードコーナーに、映像クリエイターの広瀬知哲師(株式会社慈眼 元・全曹青委託広報委員)ご提供のイラスト100点余りを収録、公開しました。また、『般若』のリニューアルで一時公開を止めていた過去期のイラストも、あわせて再収録しました。



虚空蔵菩薩



地藏菩薩

全日本仏教青年会

「TERRAへ祈る」開催

去る3月3日(木)午後6時~恵比寿ガーデンホール(入場無料)にて、全日本仏教青年会(以下全日仏青)と「子どもによる子どものための国際協力活動」を主とするNPO法人フリーザ・チルドレン・ジャパン(以下FTCJ)との協力により平和啓発運動のイベントを開催しました。このイベントは、毎年東大寺で行われている「花まつり・千僧法要」のテーマ“世界平和”を具現化したものです。オープニングは、盲目のバイオリニスト増田太郎氏の力強い旋律と歌声から始まり、全日仏青宮寺守正理事長の開会挨拶が述べられ、久間泰弘会長はじめ各加盟団体代表12名が壇上に登られました。そして、ダライ・ラマ法王殿下からの応援メッセージが拝読され、青年僧に対する喜びと今後の活動に期待を託す内容として「対話や相互理解が唯一のお互いの“相違”を解決出来る方法であること」や平和啓発運動が「次世代をも救う」との主旨が述べられました。続いて、FTCJの活動紹介と途上国の児童労働をテーマとした小学生~高校生メンバーによる演劇と本部カナダから来日したキム・ブルース氏から自身が経験された、世界35カ国以上の国際協力活動を通して得た知識と経験談が講演されました。その中で、①電気の節約は、次世代へ繋がる事。②水の節約の理由は、きれいな水には限りがある事。③誕生日には、プレゼントを貰うばかりではなくチャリティをして、他者への思いやりを持つ事。④消費者の責任として、商品の労働背景を考慮する事。⑤このイベントを人に伝え、小さな変化が大きな変化へと必ず変わる事。という内容が講演されました。その後、FTCJメンバーとキム氏、全日仏青会員ら8名により、これから世の中を平和に変化できる可能性や行動について語られました。最後は、FTCにテーマソングを提供した、彩花・irohaさんの美しい歌声で幕が閉じられました。今後、全国の宗派を超えた寺院で小規模開催し、寺小屋の復活を目論んでいます。詳細は、terra-inoru.comをご参照下さい。

TERRAへ祈る



軽快なリズムで弾き歌う増田太郎氏



一度には見難い各宗の第一正装



人のためということで互いの目標が繋がったディスカッション



インドで寄付の流れを目にした様子を伝える大学生メンバー



ゴミ山で働く子ども達との経験を語るキム氏



ジャズ、ゴスペルシンガーらしく聴衆を魅了した彩花・iroha氏

阪神淡路大震災犠牲者17回忌 逮夜・追悼法要

先般1月16、17日と阪神淡路大震災の追悼法要が神戸にて行われました。例年は全日本仏教青年会(全日仏青)の方々と、神戸青年仏教徒会の事務所において逮夜法要を行い、翌17日に長田区のとかくり教会様及びあわせの地蔵様で5時46分からの追悼の祈りを行っていました。本年は17回忌の節目に当たり、とかくり教会様のご協力のもと、教会の聖堂にて、僧侶と神父、信者さんや地域の方々、また、スペインやベトナム仏教会の方も交えての追悼の祈りを行うことができました。焼香された方は350余名と伺っています。

また、法要後に地元NPOの皆様でお作りいただいた多国籍料理の数々で懇親交流会が開かれました。素晴らしい料理を前に、会場はすれ違いの困難なほどの人だかりとなりましたが、普段は過ごせない時間を皆様と共有することができました。開かれた場所で、地域の皆様と祈りと交流が持てたことはありがたいことだと思います。関係各位には、本当に御礼申し上げます。

沿革

青森県曹洞宗青年会は昭和52年苦米地俊乗老師が初代会長となり発足となりました。主な活動として市内托鉢や法式研修会など様々な行事を行ってきました。特に寺族を対象にした精進料理講習会などは、とても貴重な体験だったと思います。当時の役員会議事録を見ても、この頃から青年会独自の研修会を実施したいとい



青森県曹洞宗青年会

団体の長所及び主な活動

私は一昨年度、昨年度の二年に渡り、青森県曹洞宗青年会の副会長として、養老寺住職金山晃道会長の元、共に活動してまいりました。その中で色々と新たなチャレンジとして、今まで青曹青として行ってこなかったことに着手してきました。まずは、ボランティア活動の一

う意見が多かったようです。平成の時代となり、雲仙普賢岳災害など被害にあわれた方の為に義援金を募り、口座を開設したり、募金箱を各教区に配布するなどその都度、積極的にチャリティ活動を行いました。そして平成3年には「インド仏跡巡拝の旅」として研修旅行に行きました。この頃はまた、交通事情の不便もあり大変だったようです。青年会活動として大きな事業と

環として、ゴミ拾い活動を行いました。ゴミ拾い自体は青曹青でも以前やったことがありますし、また他の県の青年会でもやっておられると思います。ではなぜ新たなチャレンジなのか？それは、どこかに集まるのではなく、教区単位でそれぞれがそれぞれの場所です。ゴミ拾い活動を、県内同時刻に一斉に行ったことです。忙しい会員も沢山いらっしやいます。時間の都合もあり、交通事情等で普段なかなか参加できない方でも参加で

いえば東北地方集会「青森大会」です。当時の諸先輩方も何度も会議を開き、研修内容・テーマを考え、大変な苦勞をされていたようです。これまでの大会のテーマとしては「思索、そして大いなる前進」「大衆教化の接点を求めて」「青年僧侶の安心の再考」「脚下照顧」など、青年僧侶としてできることは何であらうか、そして何かしなくてはという想いが強かったものと同じです。それは今も会員の心の中に受け継がれ、青年会という仲間と

設立 | 昭和52年発足
 会長 | 金山晃道
 副会長 | 白澤雪俊 兜森忍道
 事務局長 | 蒔苗高明
 事務局次長 | 花田崇胤
 会計 | 石岡大乗
 監事 | 小笠原寛昌 桐原拓哉
 広報 | 柿崎宏隆 新山宗晃
 三國典央
 事務局員 | 蒔苗祐二
 溝口孝道
 山口龍堂
 理事 | 13名(各教区より)
 会員数 | 82名(平成23年1月1日現在)

きるようにしたことです。これにより今までにない数の参加人数が集まりました。この行事を「そうとうお掃除し隊」と名付け、活動を始めました。当初活動としてゴミ拾いとは「ありきたりだ」という意見もありましたが、その当時、南直哉老師を招いての座談会を開いた時に、「何はともあれ、まずは行動し、続けていくことが大事である」という言葉を受け、河川敷や公園等の県内一斉ごみ拾いを実施いたしました。続けることに

して集まり、「共に仏道精進を」という現在の結束につながっております。



「そうとうお掃除し隊」



意味がある。そう信じて会員一同現在もがんばっております。

そして、昨年は法式研修として「観音懺法」を勤めました。普段あまり行することがない法式です。

県外から講師に来ていただき、懺法の意味を確認し、そして深めるところから始め、進退においては慣らしを何度も繰り返ししました。

3月11日、東北地方太平洋沖地震がございました。「観音懺法」は3月16日に厳修する予定でした。

延期の話ももちろん出ました。しかし、今だからこそより強い思いを込めようという事で、予定通り行わせていただき、震災の犠牲になられた方の供養もさせていたできました。

こうした今まで行ったことのない活動をする際、また突然の事への対応をする際、かなりの反発が出るのではないかと心配していましたが、前向きな意見を多数いた



観音懺法

だき、我々会員の心には「歩歩是道場」という精神がきっちり備わっている、そのことを強く感じられました。この前を見据える姿勢こそが我々青曹青の一番の長所ではないかと思えます。

(副会長 霊泉寺住職 兜森忍道)

これからの課題

「今の青年僧は青年らしくない」これは昨年「青年僧へ今求めること」という趣旨で青年会

が県内ご寺院にアンケート行った際にいただいたご意見です。では青年らしいとはどういうことなのか？ 私なりの考えですが、青年の特権は失敗してもいい、多少の向う見ずがゆるされるということではないでしょうか。

以前「最近おりこうさんが多く

て疲れませんか？」というセリフのCMがありました。(確か桃井かおりさんが言っていたように記憶しておりますが…)私は青年僧同士で自分の考えをもっともつと出してぶつかっても良いのではないかなと思うのです。研修会後の青年僧の懇親会でさえも自分の考えていることを口にするのが少ないような気がします。特に対社会において、自分もしくは僧侶としてどう関わっていくかという趣旨の発言は特に少ない気がしております。

私は現在青森県宗務所に書記として入って3期目で、諸先輩方の熱い意見を拝聴する機会も多いのですが、青年僧同士でそんなに熱い意見がでる場面はそうはありませぬ。もつと青年僧同士熱く語りたい、仲良くなりたいたいという私の距離感が間違っているのかと不安です。とここまで書いて、ただの愚痴ではないかと気づき、恥ず

かしくなってきました。

青森県青年会のこれからの課題、これは各会員の課題でもあります。執行部が青年会での活動を考えて会員を引っ張っていくだけでなく、むしろ一人ひとりの平会員から、「あれやりたい。これやりたい。どうかと思ってる。自由に出て、それを集約し、実行に移すために執行部が存在する」。そのくらい活力ある青年会となつてほしいと望みます。

(会員 清涼寺副住職 柿崎宏隆)

今後に向けて

当県青年会80有余名の舵取りとして、微力ながら勤めさせていただきます。

全曹青にて委員

会活動に参加できたことを貴重な経験と捉えて、今後パイプ役となることで、会員も全曹青並びに東北地協との距離を身近に感じてもらえるように、連携を密にして支え合いを目指して参ります。様々な団体組織に身と置くと、喧々諤々と衝突しようとも、振り返ったときに「人脈」という大きな財産が残るはず。そう信じて次世代へ繋いでいく所存です。

(青森県曹洞宗青年会次期会長

普門院住職 白澤雪俊)

合掌



「そとうお掃除し隊」



332 興源寺 様

●島根第2

5 地福寺 様
善福寺 様
34 正禪寺 様
43 福正寺 様
50 妙岩寺 様
63 龍覚寺 様
66 浄心寺 様
80 長寿寺 様
86 北禪寺 様
105 東白寺 様
111 萬蔵寺 様
125 西光寺 様
141 本願寺 様
144 福知寺 様
195 總光寺 様
198 日光寺 様

●香川

1 宝光寺 様

●高知

4 吉祥寺 様
9 福泉寺 様
10 浄貞寺 様
13 願成寺 様
17 元亨院 様

●愛媛

1 高昌寺 様
14 徳林寺 様
20 安楽寺 様
35 宝蔵寺 様
36 香林寺 様
37 栖源寺 様
42 興禪寺 様
91 安楽寺 様
92 顕手院 様
93 長命寺 様
96 安徳寺 様
102 高德寺 様
104 西林寺 様
106 医王寺 様
111 大通寺 様
113 西禪寺 様
116 法龍寺 様
131 久昌寺 様
146 興雲寺 様
159 宝珠寺 様
167 円久寺 様
174 掌禪寺 様
175 野間寺 様
184 正覺寺 様

●福岡

41 崇徳寺 様
67 建昌寺 様
102 能満寺 様
110 松山寺 様

158 報恩寺 様

162 紹運寺 様

●長崎第1

2 菩提寺 様
18 巖吼寺 様
47 薬王寺 様
84 廬山寺 様

●佐賀

34 栄蔵寺 様
108 光明寺 様
151 幸福寺 様

●熊本第1

48 神照寺 様
59 円通寺 様
62 善光寺 様

●熊本第2

79 向陽寺 様
88 明徳寺 様
107 観音寺 様

●宮崎

6 祐國寺 様
17 慈眼寺 様
18 金龍寺 様
34 水月寺 様
49 如法寺 様

●鹿児島

3 大中寺 様

●長野第1

6 永谷寺 様
121 浄光庵 様
178 林秀庵 様
243 広徳寺 様
300 威徳院 様
306 城光院 様
322 守芳寺 様
338 長谷寺 様
364 龍昌院 様

●長野第2

373 頼岳寺 様
379 瑞雲寺 様
406 廣澤寺 様
419 宗徳寺 様
430 長谷寺 様
507 泉龍院 様
536 宗源寺 様
554 業師寺 様
565 阿弥陀寺 様

●福井

47 瑞祥寺 様
60 興禪寺 様
231 禅心寺 様
232 長泉寺 様
265 西方寺 様

●石川

30 月照寺 様

●富山

81 長朔寺 様
83 長久寺 様
127 円通寺 様
176 心月寺 様
187 親川寺 様

●新潟第1

311 大慈寺 様
325 興善寺 様
331 東岸寺 様
358 円光寺 様
383 瑞泉寺 様
389 雲居寺 様
390 東禪寺 様
393 曹源寺 様
412 甌洞庵 様
445 永林寺 様
450 西福寺 様
453 龍澤寺 様
475 天昌寺 様
477 龍泉院 様
496 長楽寺 様
503 龍源寺 様

●新潟第2

702 江西院 様
710 晃照寺 様

●新潟第3

545 福勝寺 様
553 安住寺 様
558 周広院 様
562 桐盛院 様
646 名立寺 様

●新潟第4

44 百観音院 様
53 英林寺 様
61 永福寺 様
70 永谷寺 様
82 養廣寺 様
112 常安寺 様
189 東泉寺 様
212 太總寺 様
220 長谷寺 様
225 徳岩寺 様
236 東岸寺 様
239 千眼寺 様
255 龍阜院 様
263 海蔵寺 様
285 大伝寺 様
738 不動寺 様
809 靈道寺 様

●福島

1 常光寺 様
6 龍鳳寺 様
7 清水寺 様

10 佛母寺 様
13 陽泉寺 様
23 東源寺 様
25 安洞院 様
41 石雲寺 様
43 東禪寺 様
62 仙林寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
157 万持寺 様
174 龍徳院 様
227 龍台寺 様
230 大安寺 様
267 東禪寺 様
276 龍雲寺 様
278 浄圓寺 様
324 松泉寺 様
350 久昌寺 様
369 正法寺 様
370 秀長寺 様
374 常德寺 様
405 勝方寺 様
471 大泉寺 様

●宮城

7 保寿寺 様
10 瀧澤寺 様
29 秀林寺 様
32 永昌寺 様
35 龍雲院 様
56 大満寺 様
59 清水寺 様
71 光西寺 様
76 清涼寺 様
88 耕田寺 様
113 繁昌院 様
114 東禪寺 様
151 大雄寺 様
177 珠光寺 様
237 円通院 様
250 妙伝院 様
271 願成寺 様
308 洞仙寺 様
324 光厳寺 様
352 安永寺 様
387 福田寺 様
432 耕田寺 様
447 安養寺 様

●岩手

3 東顕寺 様
31 喜雲寺 様
32 吉祥寺 様
33 吉昌寺 様
43 中興寺 様
51 蟠龍寺 様
52 福蔵寺 様
54 龍岩寺 様
58 長福寺 様
65 仁昌寺 様
75 宗青寺 様
81 円城寺 様

111 西泉寺 様
123 宝城寺 様
142 安養寺 様
158 願成寺 様
171 光西寺 様
185 長泉寺 様
192 常堅寺 様
233 玉泉寺 様
245 常楽寺 様
252 柳玄寺 様
256 曹源寺 様
275 不昧庵 様
276 慈眼寺 様
304 柳善院 様

●青森

19 宗徳寺 様
20 盛雲院 様
25 川龍院 様
74 浮木寺 様
79 法光寺 様
100 澄光寺 様
103 光昌寺 様
109 金剛寺 様
112 法蓮寺 様
119 大安寺 様
122 法林寺 様
176 海昌寺 様
183 大乘寺 様
185 観音寺 様

●山形第1

5 光禪寺 様
113 洞興寺 様
168 高松院 様
169 雲高寺 様
194 龍護寺 様
241 福昌寺 様

●山形第2

250 桃源院 様
295 永松寺 様
307 太覚院 様
320 長泉寺 様
352 盤昌寺 様
380 正円寺 様
397 禅透院 様
746 平等寺 様

●山形第3

466 禅龍寺 様
467 般若寺 様
468 宗伝寺 様
502 楞嚴院 様
510 西光寺 様
561 勝源寺 様
635 宝護寺 様
641 宝泉寺 様
718 長淵寺 様

●秋田

8 天龍寺 様

22 源正寺 様
26 洞泉寺 様
38 眺江寺 様
47 東傳寺 様
79 東林寺 様
85 宝林寺 様
88 龍源寺 様
96 円通寺 様
112 珠林寺 様
136 長谷寺 様
162 祥雲寺 様
165 能持院 様
166 久昌寺 様
180 龍泉寺 様
181 黄龍寺 様
207 大川寺 様
220 雲巖寺 様
246 福城寺 様
261 見性寺 様
302 天昌寺 様
321 鏡得寺 様
322 大圓寺 様
323 恩徳寺 様

●北海道第1

29 法懂寺 様
37 法徳寺 様
39 正覚院 様
43 大円寺 様
78 正林寺 様
94 曹源寺 様
254 北大寺 様
257 高台寺 様
367 観音寺 様
484 禅福寺 様
486 薬王寺 様
488 清泉寺 様
510 禅燈寺 様

●北海道第2

180 曹光寺 様
181 永祥寺 様
187 放光寺 様
239 禅昌寺 様
248 総泉寺 様
272 祥雲寺 様
319 天嶺寺 様
344 全龍寺 様
359 東明寺 様
465 大安寺 様
508 大乘寺 様

●北海道第3

141 正法寺 様
152 長林寺 様
460 道貫寺 様

賛助費払込票通信欄より

- 『sousei』の表紙に、子どもたちが興味を示しています。次に何が載るのか楽しみです。
『お坊さんの『生活力』』(『sousei』151号所収)、実感がこめられていました。今後の大きな課題だと思っています。
『お寺にふさわしい結婚!』(『sousei』152号所収)は大変参考になりました。
『sousei』はなかなかの内容でくりかえし読んでいます。広報活動を重視して、多くの特色ある寺院活動や地方の情報を紹介してほしい。

『sousei』へご感想をお寄せ頂き、ありがとうございました。今期の広報委員会は「リアルボイス」の発信を心がけて参りました。それを我執の言いたい放題にせず、自己の弁道を省察し、やがては僧伽としての青年会や宗門の興隆にも資したいとの信念からでした。来期も、各曹青会の協議体として各地域の活動を発信し、青年僧の真摯な機微を反映できるよう、努めて参ります。今後も『sousei』にどしどしご感想をお寄せ下さい。2年間、『sousei』をご高読頂き、誠にありがとうございました。(第18期 全曹青広報委員会一同)

贊助費淨納御芳名簿

平成22年 平成23年
11/1 ~ 2/20

●東京都

115 高安寺 様
171 高岩寺 様
177 清保院 様
239 東雲寺 様
240 觀藏院 様
252 東光寺 様
258 永泉寺 様
260 光明寺 様
312 龍雲寺 様
317 雲慶院 様
333 東照寺 様
376 龍昌寺 様
386 立川寺 様
389 道了寺 様

●神奈川第1

285 泉秋寺 様
329 寿昌寺 様

●神奈川第2

10 随流院 様
80 福泉寺 様
93 曹源寺 様

●埼玉第1

13 宝泉寺 様
16 慈眼寺 様
19 宝積寺 様
34 楞嚴寺 様
44 宝持寺 様
49 昌福寺 様
106 光嚴寺 様
116 梅田寺 様
149 雲祥寺 様
166 全龍寺 様
185 嶺雲寺 様
434 安養院 様

●埼玉第2

203 養寿院 様
204 善仲寺 様
213 泉福寺 様
219 長田寺 様
266 法光寺 様
270 正覚寺 様
331 曹源寺 様
332 萬松寺 様
339 清見寺 様
496 長福寺 様
526 長福寺 様
572 常楽寺 様

●群馬

68 慈願寺 様
97 元景寺 様

111 雲林寺 様
115 無量院 様
124 成孝院 様
167 祥雲寺 様
168 大雄院 様
194 善宗寺 様
244 春昌寺 様
292 光嚴寺 様
297 福嚴寺 様
308 仁叟寺 様
309 永福寺 様
314 宗永寺 様
320 宗源寺 様
338 龍松寺 様

●栃木

57 満福寺 様
103 光真寺 様
119 宗源寺 様
132 宗泉寺 様

●茨城

13 龍泉院 様
49 東漸寺 様
113 常晃寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

●千葉

7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
10 流山寺 様
12 高根寺 様
22 広寿寺 様
29 慶林寺 様
32 長全院 様
45 大洞院 様
59 宗徳寺 様
68 超林寺 様
76 宝宅寺 様
95 寶應寺 様
101 医王院 様
161 大林寺 様

●山梨

94 文殊院 様
115 海潮院 様
162 法久寺 様
266 広徳院 様
524 正覚寺 様
558 安福寺 様

●静岡第1

6 瑞龍寺 様
59 天徳院 様
77 龍泉院 様
109 玉泉寺 様

112 石蔵院 様
126 一乗寺 様
175 靈山寺 様
208 延命寺 様
388 林叟院 様
391 十輪寺 様
401 旭傳院 様
463 栄昌寺 様
495 普門院 様

●静岡第2

242 眞珠院 様
319 源光院 様
325 海蔵寺 様
329 永昌寺 様
331 大江院 様
338 東泉院 様
362 福泉寺 様

●静岡第3

585 成因寺 様
608 養勝寺 様
676 孤雲寺 様
704 善福寺 様
716 龍登院 様
832 善勝寺 様
833 安興寺 様
869 龍眠寺 様
1228 栄林寺 様
1234 松久院 様

●静岡第4

1061 保福寺 様
1122 林泉寺 様
1177 礼雲寺 様

●愛知第1

2 金仙寺 様
18 大運寺 様
48 昌光寺 様
75 松音寺 様
82 成福寺 様
91 法持寺 様
96 全隆寺 様
111 龍興寺 様
127 龍潭寺 様
143 長福寺 様
148 法泉寺 様
152 龍谷寺 様
182 觀昌寺 様
216 青原寺 様
293 康勝寺 様
313 長松寺 様
317 常觀寺 様
338 長養院 様
340 興禅寺 様
342 常楽寺 様

385 東昌寺 様
605 天徳寺 様
628 靈岩寺 様
629 神龍寺 様
635 永澤寺 様
638 東昌寺 様
1039 梅雲寺 様
1101 不動寺 様
1169 觀音寺 様
1191 智光院 様
1229 玉林寺 様

●愛知第2

684 花井寺 様
816 松音寺 様
818 楽法寺 様
819 江福院 様
823 龍源院 様
893 法蔵寺 様
927 春興院 様
958 金龍寺 様
972 桂昌院 様
1018 正養寺 様

●愛知第3

382 神昌寺 様
383 玄猷寺 様
428 寶珠院 様
431 報恩寺 様
438 吉祥寺 様
484 興昌寺 様
496 常照寺 様
531 安國寺 様
558 松秀寺 様
1058 地藏寺 様
1106 宝鏡寺 様

●岐阜

15 東林寺 様
38 最勝寺 様
51 天徳寺 様
58 寿福寺 様
90 林廣院 様
108 玄霜寺 様
119 佛徳寺 様
127 増福寺 様
148 円頂寺 様
153 宗久寺 様
157 玉泉寺 様
162 清楽寺 様
203 増徳寺 様
219 勝林寺 様

●三重第1

24 一心院 様
36 法安寺 様
37 四天王寺 様

70 普門寺 様
83 涼泉寺 様
133 宜勝院 様
144 福源寺 様
159 常足庵 様
188 廣泰寺 様
240 安心寺 様
298 慶蔵院 様

●三重第2

371 光明寺 様
387 瑞岩寺 様
389 海岸寺 様
392 大義院 様
401 光明寺 様

●滋賀

35 慈眼院 様
39 白毫寺 様
186 三玄寺 様

●京都

4 無学寺 様
6 天寧寺 様
73 春現寺 様
161 禅福寺 様
236 善光寺 様
354 蓮華寺 様
355 龍猷寺 様
369 洞養寺 様
374 等楽寺 様
389 万福寺 様
390 隣海寺 様
412 完龍寺 様

●大阪

5 臨南寺 様
18 大倫寺 様
26 天徳寺 様
31 正泉寺 様
38 慈願寺 様
56 南昌寺 様
61 大廣寺 様
77 廣福寺 様
88 正俊寺 様
125 梅溪寺 様

●和歌山

20 三宝寺 様

●兵庫第1

2 満福寺 様
9 三宝院 様
287 向榮寺 様
305 雲晴寺 様
315 長松寺 様
369 大龍寺 様

370 明善寺 様
393 安養寺 様

●兵庫第2

141 松隣寺 様
188 興禅寺 様
217 長福寺 様
270 臨川寺 様
289 長松寺 様

●岡山

29 大通寺 様
131 済渡寺 様
166 善福寺 様

●広島

7 伝福寺 様
22 光禅寺 様
23 阿弥陀寺 様
26 正福寺 様
46 雙照院 様
67 西福寺 様
86 西金寺 様
102 潮音寺 様
104 松林寺 様
113 寿福寺 様
143 常林寺 様
158 西福寺 様
167 正安寺 様
175 雲龍寺 様
185 明福寺 様
187 仙房寺 様

●山口

25 弘濟寺 様
86 興元寺 様
136 大應寺 様
190 亨徳寺 様
197 大覺寺 様
212 功山寺 様
230 耕雲寺 様
263 観音寺 様

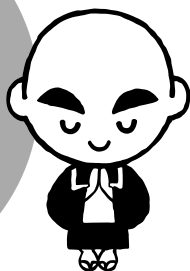
●鳥取

32 吉成寺 様
48 讓伝寺 様
71 長清寺 様
143 瑞應寺 様
159 大祥寺 様
163 雲光寺 様
168 聖福寺 様
195 普音寺 様

●島根第1

209 円通寺 様
321 善華寺 様
330 正法寺 様

全国曹洞宗青年会の活動は皆様の贊助費に支えられております。この度もご協力頂き誠に有難うございました。



両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・莊嚴・神仏具・贈答用記念品

梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本 社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号

(大須交差点東北側)

TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

彼女の生き方 ~Five Stories~ (後編)

あまのダイアログ 13

自 分だけではない、 機縁の力

飯島▼あら、市橋さんのお子さん、ニコニコして(笑)。お話を参加してるのかなあ。

市橋▼外面はいい子だから(笑)。生まれて半年を過ぎ、だいぶ楽になったけれど、初めての子育ては思うようにならないことばかりで、身心ともに大変な修業になりました。でもその経験のおかげで、育児の悩みを抱える多くの親御さんたちとも気持ちを通わせることができると思います。出産を通して、母親としての立場から活動の幅が広がります。

三須▼私も、得度のみで(僧侶とも一般人とも)どちらともつかない、今の立場だからこそ見えるものや感じるものを通して僧俗双方の橋渡しができた……と思うと、僧侶として明確に進むべき道が見えないうちは、今のようないつちつつかずな状態も良いのかな。

飯島▼自ら望むと望まないに関わらず、置かれた立場や環境で活動の幅が広がることはあるかもしれませんね。

高丘▼私は寺の出身といっても、亡くなった師匠は伯父でした。師匠は長らく重いパーキンソン病を患っていて、口からは

一切の摂食ができなかったり、病状の進行とともに変わって行く姿態を見てみると、命をつなぐことの酷い一面を痛感しました。思いあまつて人工呼吸器を止めようとしたこともあるほどです。血縁であつても親子ではない師匠では、気持ちの上で距離の取り方が難しく、延命治療によって、人間としての「生活の質」を奪ったかもしれないと思うと申し訳なく、つきつきりで付き添わなければいけないのに、「法務が忙しい」とか言い訳ばかりして、ろくに見舞いにも行きませんでした。その経験があるからこそ、人が生きる場面に僧侶として出来る限り寄り添っていたい、と強く思うんです。弟子として師匠を送りきれなかったことが、私の原点かも知れません。

女 子会」という 括りすら……

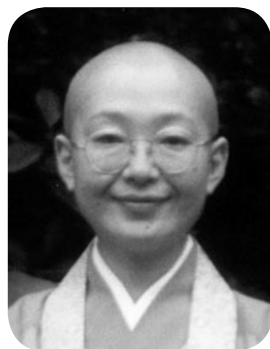
飯島▼曹洞宗に限らず、お坊さんの世界って建前が重視されまますよね。その分、普段言いきかない本音や聞いてもらえない主張って多いと思うけれど、どうですか？

高丘▼この女子会に出てきて言うのもなんですけれど、本音では、僧侶の中で男性・女性を分けて語ること自体に違和感を

覚えるんです。それこそ、僧侶という建前では同じなのに「尼僧」と呼称されて分類されるのが嫌で、単純に性差を問わず「和尚」で良いじゃない、って思います。女性だと思われることが嫌だということではなく、わざわざ言葉で分けなくても、女は女だし男は男。無理に性別を誇示して区別する必要はありません。世間では「女は捨てたんでしよう」だとか「女の人は気が利いて」みたいな、筋違いで都合の良い女扱いが多いですよね。「女子の跡取り」だったり、もっ



「女性のための仏教プチ修行」を企画し、参加者に声明を解説する(緑川)



みどりかわ みょうせい 緑川明世

天台宗僧侶。東京都生まれ。深大寺(東京都調布市)職員。国際仏教婦人会(ILAB)役員。『女性と仏教 関東ネットワーク』会員。精進料理やマクロビオティックを学び、1988年に得度。2001年から、毎年南インドに再建されているチベット仏教僧院『デブン寺ゴマン学堂』に短期滞在しながら經典を学んでいる。共著に『ジェンダーイコルな仏教をめざして』(女性と仏教 東海・関東ネットワーク編 朱鷺書房)。



市橋 俊水

真言宗豊山派僧侶。東京都生まれ。一児の母。都内の『よみうりカルチャー』（読売・日本テレビ文化センター）で仏教関連の講座を3つ担当。元グラフィックデザイナー。

と言うと女性が僧侶なだけで、妙に可哀想な存在として扱われたりってこともあります。「無理しているんでしょう?」とか「すごい覚悟ですね」とか……。「尼僧さんの権利を!」みたいな運動も必要を感じないです。本当なら、女性だけで集まるこんな対談も無いのがよいのだけれど。

市橋▼(女性が僧侶であることに)何も関知しないでほつといてくれるのが一番ですよ。豊山派に尼僧団がないのも、自分達を「尼僧」という言葉で括ると自らを差別することにつながるからです。

飯島▼ただ黙っていると「女性の僧侶はいない」なんてことにされかねない地域や場面もあるから、あえて私は「あまみず」なんて名乗って活動しているのだけれど。

高丘▼本当は、何年も顔を合わせているうちに「あの和尚さんは女の人だったんだ」ってなんとなく知られるのが理想的だけれど。僧形をパッと見ただけでは分からないのに、女性だと知ったとたん態度を変える人もいるし、男女平等の条件を男性側に引き寄せる傾向も強いですね。結婚をしないとか肉食をしないとか、同じ僧侶でも、女性が多いほど強く聖性を要求されることも多いように思います。少しずつでも区分けが曖昧になってくれば、最終的には、「女?だから何?」なんて時代が……当分こないかな。

市橋▼私の子どもも女の子です。私の周りでも「跡継ぎが出来てよかった」と言う人と、「次は男の子を産んで」と言う人と半々ですね。どちらにしても、僧侶になるかならないかなんて、



江戸六地藏の一つである真性寺(東京都豊島区巣鴨 真言宗豊山派)でのお話にて(市橋)



【耕雲種月】



【くまちゃん×月】

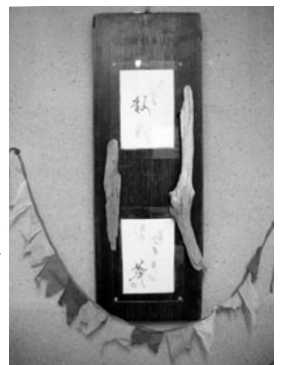


【夢観音】

上の3作品と左の作品は、駒澤大学禅文化歴史博物館で「つきみ展」というグループ展を開催したときの三須の出品作。



【月桂又逢円(右)と「手」】



三須の作品「散華」東京都世田谷区経堂のギャラリー「ガラージュ・ペー」の新人展に出品した。



三須 励法

東京都生まれ。2000年に得度。駒沢学園女子中学校から駒沢学園女子高等学校へと進み、駒澤大学仏教学部禅学科卒。2006年から作家活動を開始。アートを通して親しみやすくポップな仏教を目指し、仏教の入り口を広げようとしている。

それぞれの物語を
これからも

三須▼お寺の世界って、一般会ではとくに改善に向かってしていることが、今やっと問題とし



たか おか しょう ゆう
高丘捷佑

曹洞宗僧侶。愛知県生まれ。大正大学人間学部仏教学科卒。仏教情報センターテレフォン相談員。現在は島根県松江市・善慶寺に在籍。ドイツでの遊学を通して見た、ホスピスや社会事業による看取りを参考に、現代日本で僧侶として人の生死に直接関わる活動を模索している。



相談員として福祉施設の入居者と触れあう(高丘)

てとりあげられたり、普通だったら訴訟になるような類のことが、当たり前になり通つていたり、重要な伝統とご都合主義の因習が一緒にたにされたままで、一般の社会常識では無くてもやっていけてしまうようなシステムで動いていると思いませんか？

市橋▼その中にいる私たちだって世間知らずな面はありますよね。

緑川▼だからこそ、伝統の中にいながら外を見ている人たちが話す機会を持つのは大事なこと

です。外に向かつて積極的に活動していれば、一般の人も含めて色々な人たちと触れ合えるし、視野が広がって因習に流されないうことにもつながりますよ。この女子会にしても、女同士という理由だけで群れちゃうのは嫌だけど、それぞれが独立した考えを持って意見が言い合えるというの、とても良いと思います。

飯島▼群れて馴れ合いにはなりたくないし、いつも新鮮でいたいですよ。常に既存と違う新しいものを育てて、自分にも後進にも、進む場所の選択肢を広げておきたいですね。

緑川▼世の中がどんな風に展開していくかわからないし、変遷の速度もどんどん変わります。いろんな場所で可能性の種をいっぱい蒔いておかないといけませんね。

高丘▼大自然の動植物だって、同じ種類が同じ環境で育つと絶滅する可能性が高くなります。大切にしなければいけない伝統や仏法の本質からはずれない限り、みんなが同じように「右向け右」で振る舞う必要はありません。

緑川▼今日のメンバーにしても、居る場所は違っても視線が向いている方向は同じ。そういう方々とのつながりは楽しいで

すね。

飯島▼普段はまるきり違う活動をしているこの5人が、何かのときにはヒョイツと集まって、各々の得意分野で一緒に活動できたらいいですよ。

市橋▼それ良いな！子連れで来ても良いんですか？

高丘▼もちろん！それならいっそ主婦も主夫も子連れで参画できるように、託児場を完備して企画してはどうでしょうか。

私、子ども好きですから面倒みますよ(笑)。

市橋▼そういう場なら、僧侶の子どもたちが、自然に宗派を超えて関係を作っていくのかもしれないし、親世代の僧侶の活動や交流も、遊びの中で身近になるかもしれませんね。

三須▼場所はみんなの地元を順々に訪ねるってのはどうですか？りんごの花の季節には、長野にピクニックのために集まったって良いし。

飯島▼そうですね。会合で何年に一度なんて決めず、ずっと会わないことが続いても良いんだし。変に組織立てずに、あくまで個々の活動を前提にして、柔軟に長く付き合いたしましょう。今日の集まりも、気がついたらもう始まってから4時間以上！お喋りできて本当に楽しかったです。



い い じ ま け い どう
飯島恵道

長野県松本生まれ。尼寺育ち。看護師としての経験を生かし、医療と宗教の領域を横断する「あまんず(amans=ama(尼)+ns(ナース、看護師))」として活動中。



信者宅での血圧検査もあまんずならではの接化(飯島)

あまのすの エピローグ

平成23年3月11日午後2時46分。東北・関東地方を中心として大きな地震が起き、甚大な被害がもたらされた。

各地域にて被災された皆様にまずお見舞いを申し上げます。また災害により幽明境を異にされた皆様には心よりお悔やみを申し上げご冥福をご祈念申し上げます。そして避難所生活を続けられている皆様には、一日も早く日常を取り戻せるよう、私ができることに尽力させていただきます。私なりの日送りをさせていただきますことをお伝えしたい。

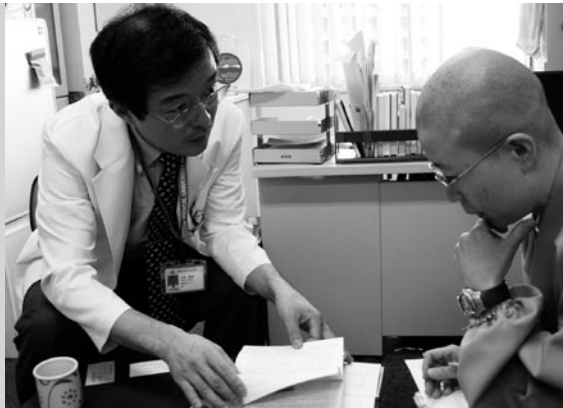
その時私がかつての職場である諏訪中央病院にいた。個人的な用事で訪れていた。揺れを感じ部屋の調度品をみると、確かに揺れていた。ドアも壁も。何回か断続的に揺れたあと、冷静

に対処するようにとの院内放送が流れた。その後も立て続けに緊急地震速報が鳴り、長野県北部にも大きな地震が起きた。私の住む松本市から塩尻市にかけては牛伏寺断層という活断層も存在するため、連動して揺れが起きるのではないかと、今なお不安が続いている。報道等にて伝えられる甚だしい被災状況を見るにつけ、心が締め付けられる思いがする。おそらく私だけではないだろう。常に「命」「生死」と向き合う立場にある「僧侶」各位におかれては、居ても立っても居られない思いを抱かれていますのではないかと思います。ある新聞記事にて「被災地での読経供養」をされている、東北のわが宗派の僧侶の皆様の活動が紹介されていた。被災地にあつて、おそらくはご自身も何ら

「なごみの里」で柴田久美子さんと「ターミナルの水先」にある、幸齢者の島より



埼玉医科大学の大西秀樹先生と（遺族外来のある病院より）



かの形で被災されたと思われる皆様、「そうせずにはいられない」「一心で読経されているお姿を思うにつけ、自然と涙がこぼれてきた。被災を受けたその現場に立つて、私は読経することができようか。声を出すことができないだろうか。自信が無い。

現在「遺族ケア」について研究を進めている。今までの「あまのす」としてのコナーの記事も「死別」「看取り」「ケア」等がキーワードとなっていた。しかし、今回の震災発生から今日までの一連の動きをみると、「死別」「看取り」について考えることができる時間があること、「有難さ」をしみじみと感じるのである。同時に、その猶予もなく旅立たねばならなかった方々の無念を、旅立ちにあたっての

準備を進めていたにも関わらずそれを果たせずに旅立たざるを得なかった方々の無念を思うと、言葉を失ってしまうのである。「遺族ケア」については、緩和ケアとの関連の中で論を進めるべく研究を重ねている。来年はまとめたいと考えている。

講演にて東北に赴いた折、これまでの私の活動紹介の一端として「チェルノブイリ原発事故による被災者支援活動」についてお話しすることがあった。そう遠くない昔のことである。当時は、そのような事故が日本で起こるとは思っていなかった。後手にまわってしまった政府や業者の対応の悪さを指摘することはたやすいが、それを受けて、私たちのライフスタイルの変更も余儀なくされるであろう。その際「禅の生活」という視点から

株式会社出口久美子さんと（死別の悲嘆にひたまりを正し）



あまのすと東昌寺ファミリー



社会に対して様々な提言ができるのではないだろうかとも考えている。知恵を出し合い、力を出し合つて、「日常」を取り戻すために頑張りたい。

あるフリージャーナリストが「頑張るのは私たちです。被災された皆さんは、元気を出してください」と言った。私は大きく頷いた。私は頑張らなければならぬ。かつての上司は「がんばらない」というベストセラーを書いたが、今、私は、とにかく頑張りたいのである。

6年間の長きにわたり、読者の皆様と共に過ごさせていただけたい。心より御礼を申し上げます。皆様のご健勝とご活躍をご祈念し筆をおくことにする。

飯島恵道 合掌

「非僧非俗」について考えてみよう

全曹青広報副委員長 釜田尚紀

「な」
るからには本物のお坊さんになる。
もう結婚はしません。

社会人をやめて僧侶になると決めるとき、
僕は師匠にこのように宣言した。

しかし……、今ふりかえるとかなり恥ず
かしい。「本物のお坊さん」ってなんやねん。

離婚をきっかけに、社会とはまた別の価
値観を持つ僧侶になろうと思った。一方で

それまで勤めていた仏教系出版社では、仏
教界のゴシップもよく耳にしていたし、こ
れからはそれらも当事者として

引き受け、とにかくまじめにコ
ツコツと修行しますという、そ
んな意気込みだったのだと思う。

でも実際、この世界に入り、
世間では不祥事とされる出来事
の実情を知ったり、本物といえ
る僧侶にも出逢い、外からは見
えないことがたくさんあること
がよくわかった。

そのうえで正直に言う。前言
撤回、多分、僕は死ぬまで本物
にならない。結婚もせんとか言
っていたけれど、それもこだわ
る必要がない気が最近はしてき
た。別に結婚願望が芽生えたわけではない。

きつと僕にも日本仏教の現状がようやく肌
で実感できてきたのだ。

僕は3年前、覚悟を決め出家したつもり
だった。でも僕が出家した先は、実は「在家
仏教」だった。

お 釈迦さまも道元禅師も、もし今の宗
侶を見たらビックリするだろう。「え
い？ あなた達結婚してるの？ いいのは
在家の優婆塞・優婆夷ですよ。」



そう、本来の教えでは結婚していれば出
家ではない。仏教は何物にも執着せず全て
を捨てているからこそ自由だったのに、僕
らは明治政府の政策の一環で肉食妻帯のチ
ヨイスを与えられ、変容を受け入れた。

今の日本仏教は社会のルールと共に在る。
それは信仰が基本的に法治国家に住まうヒ
ト個人単位によるのだから当然の帰趨とも
いえる。しかし、ともすると世間の常識に
さえ簡単に翻弄されてしまう。ここまでい

くとおかしい。でも、これもまた変容し続
けてきた日本仏教の側面。ただ僕らはその
見えづらい境界線上で迷ってしまう。

ところが「お寺」とか「宗門」単位になると
話が違う。寺院には聖域としての空気が備
わっている。もし本堂が一般家庭のお茶の
間の雰囲気と漂わせていたら大問題。また
僧衣でラブラブデートなんていうのも絶対
ありえない。僕らはここに僧侶としての絶
対的な社会との境界線を見ている。

出家と在家という線引きは実に分かりや
すかった。いま日本にもまだ出家者と呼ば
れる人々はいらる。見た目は僕らと同じ。た
だ中身が全く違う。じゃあ結局、僕らは一
体何者だ？ 出家でもない、在家でもない。

これはまさに親鸞聖人が自身の信仰の立
場を表現された「非僧非俗」そのものである。
お寺の運営にはそれぞれに課題があり、考え
なくてはならないことが山ほどある。でも、
今それはしばしば横に置いておく。この「非僧
非俗」を僕ら個人が受用したなら、仏教とは
自分達にとってどういう存在になるのか？

そうすると、僕ら僧侶とは自分が最良だと
感じた生き方と職業がマッチした、夢のよ
うな存在であると言っことができる。

そこを押さえれば、ジレンマは残るけれ
ど、僕らは胸を張って僧侶として生活を営
んでいけるのだと思う。そして仏弟子であ
ることを感謝しつつ、仏教者として社会と
共にあれば、自ずと活動現場であるお寺も
生き生きしてくるだろう。また、保障はし
ないけれど、そんな活動の過程でお寺で一
緒に仏教をしたいと願う未来のパートナー
が現れるかもしれない。そして、もし一仏
教者として誠実にお付き合いし、互いにそ
れを望むのなら、その時は結婚してみても
いいんじゃないだろうか？

シャンティ国際ボランティア会の故有馬
実成師は、結婚されるとき奥様へ、「これは
僕が一番好きな本です」と言って、『正法眼
蔵随聞記』を手渡されたとのこと。結婚の予
定はないけれど、こんな素敵なお坊さん
なら僕も真似してみたい。

出家と在家という線引きは実に分かりや
すかった。いま日本にもまだ出家者と呼ば
れる人々はいらる。見た目は僕らと同じ。た
だ中身が全く違う。じゃあ結局、僕らは一
体何者だ？ 出家でもない、在家でもない。

これはまさに親鸞聖人が自身の信仰の立
場を表現された「非僧非俗」そのものである。
お寺の運営にはそれぞれに課題があり、考え
なくてはならないことが山ほどある。でも、
今それはしばしば横に置いておく。この「非僧
非俗」を僕ら個人が受用したなら、仏教とは
自分達にとってどういう存在になるのか？

そうすると、僕ら僧侶とは自分が最良だと
感じた生き方と職業がマッチした、夢のよ
うな存在であると言っことができる。

そこを押さえれば、ジレンマは残るけれ
ど、僕らは胸を張って僧侶として生活を営
んでいけるのだと思う。そして仏弟子であ
ることを感謝しつつ、仏教者として社会と
共にあれば、自ずと活動現場であるお寺も
生き生きしてくるだろう。また、保障はし
ないけれど、そんな活動の過程でお寺で一
緒に仏教をしたいと願う未来のパートナー
が現れるかもしれない。そして、もし一仏
教者として誠実にお付き合いし、互いにそ
れを望むのなら、その時は結婚してみても
いいんじゃないだろうか？

シャンティ国際ボランティア会の故有馬
実成師は、結婚されるとき奥様へ、「これは
僕が一番好きな本です」と言って、『正法眼
蔵随聞記』を手渡されたとのこと。結婚の予
定はないけれど、こんな素敵なお坊さん
なら僕も真似してみたい。

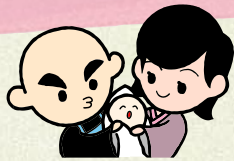
出家と在家という線引きは実に分かりや
すかった。いま日本にもまだ出家者と呼ば
れる人々はいらる。見た目は僕らと同じ。た
だ中身が全く違う。じゃあ結局、僕らは一
体何者だ？ 出家でもない、在家でもない。

これはまさに親鸞聖人が自身の信仰の立
場を表現された「非僧非俗」そのものである。
お寺の運営にはそれぞれに課題があり、考え
なくてはならないことが山ほどある。でも、
今それはしばしば横に置いておく。この「非僧
非俗」を僕ら個人が受用したなら、仏教とは
自分達にとってどういう存在になるのか？

そうすると、僕ら僧侶とは自分が最良だと
感じた生き方と職業がマッチした、夢のよ
うな存在であると言っことができる。

そこを押さえれば、ジレンマは残るけれ
ど、僕らは胸を張って僧侶として生活を営
んでいけるのだと思う。そして仏弟子であ
ることを感謝しつつ、仏教者として社会と
共にあれば、自ずと活動現場であるお寺も
生き生きしてくるだろう。また、保障はし
ないけれど、そんな活動の過程でお寺で一
緒に仏教をしたいと願う未来のパートナー
が現れるかもしれない。そして、もし一仏
教者として誠実にお付き合いし、互いにそ
れを望むのなら、その時は結婚してみても
いいんじゃないだろうか？

お寺暮らしの ライフデザイン 5



CASE #5 静岡県裾野市・光明寺様

副住職 松岡広也師
(全曹青 総合企画委員長)



●**松岡** 私は元々在家の出身で、母の実家が今の師寮寺だったのですが、先代が早く亡くなって祖母が長く守っていました。今は伯父が住職をしています。子どもの頃からお寺には出入りしていましたが、檀信徒さんの中で、何となく私に後を継いでほしいという空気があって、それが一時期はすごく嫌でしたね。宗派も意識したことがなかったし、何の知識もなかったんですけど、それでも後を継いで僧侶になると決めたのは、「他の人に期待されて"やってほしい"って請われるような仕事って、他にはないだろうな」って、ある時思い定めたんです。23歳の時ですね。

■**藤本** 今は「職業選択の自由」が謳われていて、中小企業での世襲も、20年前までは70%だったのが、今では約40%といわれています。しかも、事業者にとって甥や姪に当たる方が継がれるケースが増えています。直接の親子よりも、三親等くらいの方が、適度に距離感もあって「骨肉の争い」とかにもなりにくく、むしろ事業者も「わざわざ継いでくれたのだから」と考えて、後継者との関係がうまくいくケースが多いようです。また今は、不況や就職難といった社会情勢と共に、若者が仕事にやり甲斐を見出しにくくなっているのでしょう。組織の歯車になるのを拒んで、自営や企業家を目指す方も増えています。松岡さんの選択は、まさにそんな世相と合致してますね。

●**松岡** 師寮寺では、ようやく私が住むことを想定した庫裏の整備が始まったばかりで、正直なところ私自身がまだ20、30年後のライフプランまでは見えていないのが現状です。こ



静岡県 光明寺様

の連載で話題に上がった後継ぎや保障のこと、厚生年金への切り替え、それから退職金制度についても大変興味がありますが、副住職という立場もあって、今すぐ具体的に実践する段階ではありません。

■**藤本** 我が国の平均寿命が延びており、ご住職が交代時期を明言されないまま、結果的に副住職の期間が長くなる傾向が見られます。それぞれお寺さまの事情もあるでしょうが、副住職の期間が長くなることでモチベーションが保てなくなるか、気になりますね。副住職の方々は、一般的には働き盛りと言われる40歳前後の方が多くはいませんか。モチベーションが低いと周囲にも魅力的に映らないし、ひいては次代の継承への支障にもなるように思われます。

●**松岡** 私の場合は住職の理解もあって、今は積極的に青年会活動や社会活動に参画ができています。しかし裏を返せば、それは寺務や檀務の主体性を住職が担っていることに甘えているから出来ている面が大きいです。将来、私自身が住職として主体的に寺院運営に携わったとして、果たしてうまくやれるのか。知らないことが多い分、不安や心配なことも多いです。

■**藤本** 公益法人制度改革が、平成25年の新制度移行期限によって一区切りつくと、次はお寺などの宗教法人に対する世間や行政の目が、一層厳しくなることが予想されます。だからこそ、我々のような外部の専門家がなきゃいけません。例えば教区単位でも良いので、弁護士、税理士またはファイナンシャルプランナー等と関係を持って頂いて、専門知識や一般的な観点を加味して頂けたらと思います。僧侶の方が後顧の憂いなく、本来の勤めである宗教活動に専念して頂くためには、専門家と一緒に、資産やリスクの管理が行き届いた万全の法人運営が必要だと思います。約60年前、「お寺」は「お祈りや祭祀の場」を永久的に残すため、「公共の財産」として「法人化」されました。その結果、ご住職やご寺族の財産権がどうなったのかを、あまり意識されなくなったように思います。法人化は、お寺がずっと続くことを前提として成立する制度です。だからこそ私は、法人の代表役員であるご住職こそ、確信を持って後継者を育成し、ご寺族のためにも、お寺(法人)の健全な維持・発展をしていただきたいと思います。

聞き手

藤本俊丈



住友生命保険相互会社 教育部 FP・販売スキル教育室
上席部長代理
1級ファイナンシャルプランニング技能士【国家資格】 社会保険労務士
住友生命保険相互会社 東京本社
〒104-8430 東京都中央区築地7-18-24
TEL (03)5550-4428

訪ねて 羅漢寺を

一三〇〇年以上の歴史を秘めた岩窟の古刹

耆闍崛山



今より遡ること二二六六年、大化元年(六四五年)にインドから渡来した法道仙人によって開かれたのがこの寺の興りとされる。

平安時代は山岳信仰の聖地であったが、暦応元年(一一三八年)臨済宗派の円龜昭覚禪師が入山のちに訪れた逆流建順禪師とともに一年で彫り上げた七〇〇余体の石像が羅漢寺の由来となった。

その後、普賢禪師が刻んだ千体地藏と十王尊を併せると、本寺の石仏は三七七七体にも及ぶ。

寺は約二六〇年間、臨済宗として栄えたが戦国期に衰退。慶長五年(一六〇〇年)、大寧寺の鉄村玄齋禪師により曹洞宗として復興を遂げた。

五百羅漢 ● 無漏窟に安置された五百羅漢。実際には五〇〇体以上ある。死に別れた人にそっくりな顔の羅漢が必ずいるともいわれる。なお、無漏窟の羅漢は修行の場、外の羅漢は生活の場と解釈されている



切り立った岩山の中腹に建つ山門と無漏窟(右)。かつては山岳信仰の聖地であったといわれる岩窟の風景



門の左右に配した阿吽の仁王像。右が阿、左が吽。異教の風貌だが製作年は寛延4年(1751年)とある



仁王門 ● 江戸時代の建立で、昭和18年(1943年)の火災を免れた貴重な門。天井には足利義満より賜った扁額がある

山岳信仰の聖地から 羅漢と地藏の庶民信仰へ

大分県北西部、切り立った岩山の中腹に建つ羅漢寺。かつては山岳信仰の聖地であったといわれるが、現在においても、その険しい参道や奇岩の連なりには靈気が宿る気配すら感じられる。

大化元年(六四五年)、インドから渡来した法道仙人がこの地を訪れ、インドの聖跡「耆闍崛山」を彷彿させたことからこの山で修行を積んだと伝えられ、山を下りる際に残したとされる金銅仏が「閻浮檀金觀世音菩薩立像」として寺に伝わる秘仏となった。

平安時代は天台宗に属した時期もあったが、暦応元年(一一三八年)臨済宗派の円龜昭覚禪師が入山。十六羅漢の描像を洞内に祀ったことが羅漢寺の起源とされる。さらに中国の僧、逆流建順禪師とともにわずか一年で七〇〇体以上の羅漢像を彫り上げたことを知った室町三代将軍、足利義満が羅漢寺に帰依、前管領の細川家からも支援を得て、寺の普請は整備された。

本寺には、五百羅漢の他にも室町期に普覚円智禪師によって刻まれた千体地藏や十王尊があり、これらを併せると実に三七七



取材にご協力をいただいた皆さま。左から、安全寺の高崎正見住職、本耶馬溪町ボランティアガイドの中島和貴氏、中津城広報企画局長の奥城啓一師



山門をくぐり、さらに登ると洞門の向こうに本堂が見れる。本堂もまた巨大な岩山にめり込むように建っている



山門●急な斜面の岩肌にめり込むように建つ山門。仁王門と同じく火災を免れた貴重な門



堂内に厳かに祀られた須弥壇

須弥壇の釈迦如来坐像。秘仏である「閻浮檀金(えんぶだごん)観世音菩薩立像」は本堂の奥深くに



本堂●焼失後、昭和44年(1969年)に再建。銅板葺きの屋根の上に小さな楼閣を載せた造形が珍しい



本堂手前の急峻な崖地に建つ鐘楼。ここからの眺めは絶景だが登るには危険が伴う

七体もの石仏がそこかしこに祀られている。永い歴史の中で、羅漢と地藏の二つの庶民信仰が根づいていったのである。
なお、本堂には釈迦如来像が祀られているが、羅漢寺の本尊は仏舍利(釈迦の骨を取めた舍利塔とされる)。

戦国期の衰退を乗り越え再び迎えた復興の時代

中世を通じて、幕府や守護大名の大内氏、宇佐神宮などからの庇護を得て繁栄の道を歩んだ羅漢寺だが、戦国の動乱期には一転、キリシタン大名の太田宗麟が領内の寺院を邪宗としてすべて焼き払い、寺は一気に衰退した。

その後、永い荒廃の時代を迎えるが、深川大寧寺の鉄村玄鸞(てつむら)禪師が入山、時の城主、細川忠興の援助を得て、寺は再び復興を遂げた。こうして、約二六〇年間続いた臨済宗の歴史は中興の祖、玄鸞によって慶長五年(一六〇〇年)に曹洞宗へと改宗された。

それゆえ、羅漢寺の大開基は足利義満であるが、中興開基は細川忠興である。なお、末寺は最盛期には四十数カ寺を数えた。戦国期の兵乱によって焼失・破損した境内は忠興によって再興されたが、残念なことに昭和十八年(一九四三年)再び出火。麓の集落の火災から飛び火した炎は堂宇を焼き尽くし、残ったのは仁王門と山門のみであった。

現在の御堂は昭和四十四年(一九六九年)に再建されたものである。

親しい人の顔に出逢える故人に再会できる寺

日本三大五百羅漢の一寺とされる羅漢寺。その数、五〇〇体以上に及ぶ羅漢仏は、巨大な岩壁を穿った無漏窟の中に安置されている。漏とは煩惱を意味し、無漏窟は煩惱



無漏窟の外に座る寶頭盧(びんづる)(左)と切り株の無で修行を積む羅漢(右)



山門の扁額。山号の「耆闍崛(ぎしゃくつ)」は黄檗(おうばく)三筆の一人、即非(そくひ)禪師参詣の折の筆



無漏窟の入口。無数のしゃもじは悩みをすくう(救う)に重ねた願かけから



室町期に普賢禪師が刻んだとされる千体地藏と十王尊



自ら顔をめくり、その下から菩薩が顔を現した羅漢



無漏窟の前にある龍の石像。戦国期の焼き討ちを全焼から防いだと伝えられる

無漏窟内の釈迦如来坐像(通称、拈華の釈迦)。無漏窟の中央、天井の一枚岩の下に祀られている





羅漢寺の対岸に臨む古羅漢の風景。貴重な石造物が多数点在し、現在では羅漢寺の原所地はこちらであったと考えられる



本堂の脇に残る滝筋の跡(右)と、その斜め上に配された韋駄天(いだてん)(上)。この配置は中国の掛け図に描かれた羅漢の構図とほぼ同じとされる



のない岩窟、すなわち極楽浄土へとつながっているという。
この無漏窟内の五百羅漢は、釈迦如来坐像を中央に、左右に重なり合うように並んでおり、製作年は南北朝期の延文五年(一三六〇年)頃といわれる。
羅漢とは阿羅漢の略称であり、仏教修行の最終段階にいる尊者を表し、己の悟りを得た対象として、かつては修行者の信仰仏



縁結びの地藏"比丘(びく)"と"比丘尼(びくに)"

その危険を冒した旅の僧侶、禅海和尚が三十年の歳月をかけて手掘りで掘り抜いた洞門(青の洞門)によって、ようやく参道が築かれたのである。現在では山門までのリフトも設置され、安心して登れるようになっているが。
今なお歴史のベールに覆われた羅漢寺は、現在も調査研究が進められているが、先人が築いた極楽浄土を目の当りにできる寺として、ぜひとも訪ねてみてはいかがだろうか。

であった。のちに釈迦の十六人の直弟子を十六羅漢と称し、やがて五百体へと数が増えるにつれて仏と衆生をつなぐ身近な存在として、その信仰は民衆へと広がっていった。また、五百羅漢には家族や親しい人に似た顔が必ずいるといわれ、故人と再会できる場ともされてきた。
そもそも羅漢信仰は中国の唐で盛んとなり、やがて日本に伝わるにつれて親しみやすい風貌や現世利益と結びつき、庶民信仰の中心として広く親しまれていったのである。その象徴ともいえるのが、釈迦の第一高弟とされる寶頭盧尊者(ビンドラ・バラダージャ)だろう。通称「なで仏」とも呼ばれ、自らの病んだ部位をなでることで除病の功德があるとされている。
しかし、かつての羅漢寺は誰もが気楽に参れる寺ではなかった。そそり立つ断崖にようよう通れる細い道を、鎖一本を頼りに越えなければならず、この難所で命を落とす人も少なくなかったという。

名所旧跡が点在する景勝地



明かり取りの窓

美しい景観と歴史のドラマに触れる
競秀峰と青の洞門

漢学者、頼山陽が命名したとされる耶馬溪。山国川上流に広がる奇岩の風景は、溶岩浸食が作り出した自然が織りなす一大パノラマだ。なかでも絶景ポイントの本耶馬溪の競秀峰。ここには、菊池寛の小説『恩讐の彼方に』で知られる「青の洞門」もある。

旅の僧侶、禅海和尚が、鎖渡しと呼ばれるこの地の難所で人々が命を落とすことを憂い、ここに洞門を築いたのである。ノミと槌だけで三十年かけて掘り抜いた道は、全長三四メートル。現在は、当時の姿とはかなり変わってしまったが、旧洞内には明かり取りの窓やノミ跡がいまも残る。



洞門内に祀られている地藏菩薩(右)と禅海禅師(左)



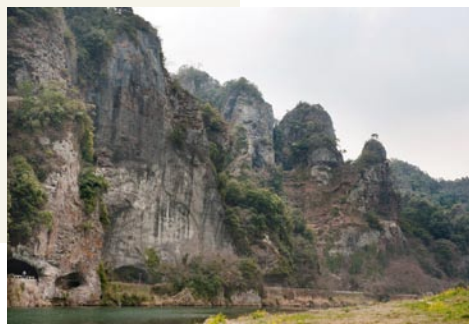
当時の面影を残す洞門。手彫りのノミ跡が壁面に残る



正面が当時の青の洞門。右側の道は現在の洞門へ



現在の青の洞門。この右側(川側)に旧洞門の一部が残されている



競秀峰。溶岩浸食が織りなす耶馬溪一の景勝地。左下の川沿いのトンネルが青の洞門

日本一の長さを誇る 耶馬溪橋

青の洞門より下流五〇メートルあたりに架かる。別名、オランダ橋とも呼ばれる八連アーチの石橋で、全長は二一六メートル。石橋では日本一の長さを誇る。その堂々たるフォルムは周囲の景観とも調和して美しい。完成は大正十二年(一九二三年)、工費は当時の金額で約四万円余り。



耶馬溪橋

三連アーチが近代的な 羅漢寺橋

青の洞門より上流五〇メートルあたりに架かる。当時としては珍しい三連アーチの石橋で、径間が大きくならかなため近代的なイメージを感じさせる。反面、架橋工事は難しく、完成までに二回崩壊したという。全長は八九・〇三メートル、完成は大正九年(一九二〇年)。



羅漢寺橋

『このたびの地震災害により被災された皆さまへ』

東日本巨大地震により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、

被災された皆さま、そのご家族、ならびにご関係者の皆さまに、

心よりお見舞いを申し上げます。

被災地が一日も早く復興することを心よりお祈り申し上げます。

ハロークリーン 代表 齋藤勝孝

齋藤商会
ハロークリーン <http://www.hello-clean.com>
〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-22-13-1F

 **0120-918-388**

東日本大震災による被災地の復興支援の募集

現地活動団体の募集

全国曹洞宗青年会では、東日本大震災などの被災地復興の為に、炊き出しや行茶などの活動していただける団体(各曹青)や個人の事前登録を募集します。詳しくはホームページ「般若」をご覧ください。

ボランティア基金の募集

全国曹洞宗青年会には、特別会計として「ボランティア基金」を設置しており、東日本大震災被災地の各曹青会による地元での復興支援活動に対し、本会基金運営規程に基づき当基金を運用することいたしました。このたびの大震災は、中・長期的な支援が不可欠とされています。全国の各曹青会、宗門御寺院、御寺族、檀信徒各位、そして全ての皆様に当基金の趣旨をご賛同いただき、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

《 支援金受入口座 》

銀行名：ゆうちょ銀行
口座名：全国曹洞宗青年会
ボランティア基金
口座番号：00100-5-593165

※他行から振込の場合
銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：019
番号：019
当座預金
口座番号：0593165

全国曹洞宗青年会ホームページ「般若」

全曹青 般若

検索 

全国の曹青会活動をつなぐ情報サイトです。どうぞ御利用下さい！
特設ページ「SouSei on web」(パスワード制)は、誌上の補足情報や特別コンテンツが満載です。

***パスワード「1890」を入力して下さい。**